

CLOSE UP

クローズアップ



金城学院大学 文学部日本語日本文化学科

薬師院 はるみ 教授

京都大学大学院教育学研究科(図書館情報学)博士後期課程研究指導認定退学。博士(教育学)。2005年金城学院大学に就任。専門分野は図書館情報学。研究テーマは図書館職員論、司書職制度、図書館行政。日本図書館研究会、日本図書館情報学会、日本図書館協会、大学図書館問題研究会、中部図書館情報学会、日本図書館文化史研究会所属。

“社会の縮図”の図書館で情報整理を学び、 将来に役立てて豊かな人生を歩んでほしい

「知識や文化の身近な地域拠点」の理想のために、図書館制度や図書館経営論の研究を続けられる薬師院はるみ先生。非正規職員の問題や指定管理者制度の問題など、さまざまな問題について熱心に研究を続けていらっしゃいます。また授業のかたわら、「図書館にかかわりたい」という学生と勉強会を開き、公共図書館での活動も展開。「図書館学で身につけた情報整理の知識や技術を将来に役立ててほしい」と日々熱心に指導にあたられています。

I 図書館の制度や経営を研究

大学を卒業してから全く別の仕事をしていましたが体調を崩して職場を離れました。その後、京都大学の東南アジア研究所で非常勤の司書として働くことになったのですが、そのときに図書館学の面白さに気づいたので。もともと本が好きで、勉強するうちに「もっと本格的に学びたい」と思うようになり、京都大学の大学院に入って5年間図書館学を研究しました。

そのときから私が取り組んでいる研究は図書館制度と図書館経営論です。図書館の魅力は、敷居が低く誰もが図書館に対してさまざまな意見をいえるところです。

図書館は知識や文化の「身近な地域拠点」をめざしています。地域ごとに様々な資料を集積し、それを日本中や世界中で交流できるようになるのが理想です。世界では目録記述の国際的な標準規則（ISBD）も整備されています。しかしその理想に到達するためには、やはり各図書館にきちんとした技術と知識を持つ司書が必要となります。最近是指定管理者制度を取り入れる図書館もありますが、長期的な視野に立った運営ができないことや、働く人の待遇などが大きな問題になっています。図書館が知識や文化の地域

拠点として世界中の図書館と交流できることを目標にして、こうした研究を引き続きしていきたいと思っています。

大学の授業では図書の分類や目録について学ぶ「情報資源組織演習」や、実際に図書館のカウンターなどで演習も行う「図書館サービス演習」などを担当しています。また「何ら

かの形で図書館とかかわりたい」と研究室を訪ねてきた熱心な学生たちと勉強グループを作って、公立図書館での活動も行っています。夏に阿久比町立図書館で行った紙芝居が大変好評でしたので、今後もさらにこうした活動の場を作ることができたらと考えています。

I 図書館学を通して、図書館の奥深さを知ってほしい

私は常々、図書館は社会の縮図だと考えています。各時代の公共図書館の蔵書を調べると価値観や時代背景がわかるのです。たとえば、昔のヨーロッパでは本を多く持つことが権力の象徴でした。また19世紀のアメリカでは、有識者が選ぶ良書を人々に読ませるために、検閲は当たり前でした。現在の図書館はあらゆる情報を集めて、市民に考

える機会を与える役割を担っています。学生たちには、こうした奥深さをぜひ知ってほしいと思っています。また情報が膨大な現代だからこそ、自分がほしいと思う情報を手に入れるのは難しいもの。図書館サービス演習などで正しい情報整理や入手の技法を学び、社会や家庭生活で役立てながら、豊かな人生を歩んでもらいたいと願っています。

薬師院先生はどんな人？

図書館サービス演習の2年生に、先生の印象を伺いました。すると「とにかく優しい先生」「話し方がおっとりとしている」「話題が豊富で楽しい」という話が聞かれました。また「学生のことを考えてくれて、授業もわかりやすい」「わからないことがあればいつでも研究室に来てくださいといってくれる」という声も聞かれ、先生の優しく温かい人柄が窺えました。

